

【特集】 令和4年度 函南町青少年健全育成大会

「思いを届ける」

問合せ／生涯学習課 (979-1733)



丹那小学校 6年
むらた そら
村田 空色 さん

学校に夢を

皆さんは、自分の学校が好きですか。私は大好きです。私の通う丹那小学校は、人数は少ないですが、多くの行事や自然体験ができる学校です。

丹那小学校では、今年から新しく丹那ドリームスクール委員会、略してTDS委員会ができました。TDS委員会とは、丹那小学校が夢のような楽しい学校になることを目指す委員会です。私は、希望が叶い、TDS委員会に入ることができました。委員会活動が始まり、夢のような学校について話し合い、ICTを使って全校にアンケートをとることにしました。その結果をもとに、委員会として何をしていくのかを先生方に相談し、まず、学校の中でどんな人になりたいのか全校で考えていくことにしました。次に、夢のような学校に近づくために、誰にどんな事してもらおうか委員会でも話し合いました。今は、各学年や各委員会にアイデアをお願いしているところです。

TDS委員会は、まだ活動を始めたばかりです。これから、丹那小学校が魅力ある学校に近づくと、楽しい活動が多くできることに私の心は弾んでいます。そして私は、TDS委員会のことを聞かれたら、こう答えます。「世界で丹那小にしかないすてきな委員会」で、夢のような学校を目指しているよ。」と。

6月26日、文化センター

で青少年健全育成大会を開催しました。町内の小学校5校、中学校2校、田方農業高校の計8校の代表者が「わたしの主張発表」を行いました。

「わたしの主張発表」の内容や社会を明るくする運動求スター特選作品などを紹介します。

※各発表者の文章は、主張の内容を要約して掲載しています。

【司会】



福岡 美音 (東中3年) 深瀬 莉央 (東中3年)

青少年健全育成大会の目的

青少年健全育成大会は、町の宝である青少年の「いま」を知り、地域全体で子どもたちを見守ることのできる函南町をつくるために開催しています。

子どもを育てることは未来の地域の人材を育てることです。現在、家庭の在り方が多様化し、行政などの支援が必要になっているケースもしばしば見受けられます。

子どもたちが健やかに育つには、地域、学校、家庭の連携が必要です。子どもたちが元気に成長できる環境をつくるため、地域みんなで協力していきましょう。そして、函南町から「未来へはばたく若い力」を育てましょう。



桑村小学校 6年
うちの たけし
内野 剛志 さん

地域の人々に見守られ

登校する時や下校する時に地域の人が声をかけてくれ、僕たちが安全に楽しく登校や下校できるように見守ってくれるから、僕の周りの人は優しいと思います。

また桑村小学校では、桑村小学校でしかできないことを地域の人と体験することが出来ます。それは、お茶つみ体験、田植え体験、稲刈り体験、函南原生林探検などで、本当に貴重な体験ができます。また、学校の近くに住んでいて僕たちをいつも見守ってくれている鈴木薫さんは、自宅を開放して僕たちに勉強を教えてくださいました。このように、僕は地域の人に見守られながら学校に通っています。地域の人が僕たちのことを見守ってくれているので、僕も実践していることがあります。それは、「おはよう」と声をかけられたら、大きな声であいさつをすることです。僕の実践していることは小さなことかもしれませんが、続けていくことで地域に明るいあいさつが響き、その輪が広がっていくかもしれません。

僕は、函南が好きです。桑村小学校のある地域が大好きです。自然に恵まれ、人も優しいからです。僕も大人になったら、お世話になった人たちを見習って、登下校する小学生が安全に楽しく登校できるように見守ってあげたいです。



函南小学校 6年
つじの たかひろ
辻野 貴大 さん

言葉と心のつながり

皆さんは、言葉と心について深く考えたことはありませんか。僕は、自分の言葉が本当に相手に伝わっているのか、自分の言ったことがいじめにつながっていないか考えます。

5年生のとき、自分は正しいことを言っているのに相手は受け入れてくれないことがありました。その時の僕は気付いていませんでしたが、相手に分かってもらうには正しい言葉だけではなく「やさしい心」が必要なのです。

6年生になって相手との心のつながりについて考えるようになりました。悲しい気持ちの相手と心がつながれば励ましの言葉が言えるはずですが、そうすると相手も自分も温かな気持ちになると思っています。しかし、普段から一緒にいる友達とも、心のつながりがあっても言い方次第でけんかになってしまう時があります。

心がつながれば、相手が落ち込んでいるときには、励ましたり、助言したりもできます。逆に言葉は友達を傷つける力を持っています。言葉と心は切り離せない大切なものなのです。

ぼくは言葉と心について、永遠に付き合っていかなければいけないものだと考えています。温かな言葉で周りの人とのつながりをより深めていくのが、今の僕の目標です。



東小学校 6年
まつい れおん
松井 蓮恩 さん

災害は他人事から自分事に

皆さんは、普段から災害に備えていますか。2019年10月、台風19号が、各地に大きな被害を与えました。僕の家も風雨が強くなり、夕方には警報や避難指示が出始めました。そして夜にはついに、ライフラインが停止してしまい、冷蔵庫の中身は傷み、トイレは流すことができませんでした。翌日には復旧しましたが、台風のとつもない威力とライフラインが止まることの大変さが分かりました。

東小学校では、「防災キャンプ」という行事を行います。災害に遭遇した時の対応について学んだり、被災した人の話を聞いたりして、命を守る行動をとれるようにすることを目指す行事です。災害への対応についての学習では、心臓マッサージの方法やけがをした人の応急処置の仕方が心に残りました。また、岩手県にある電話線のつながっていない電話ボックス「風の電話」を設置した佐々木さんの話も心に残りました。防災キャンプの後には、家で備蓄品について話し合い、これまで以上に防災対策をしていくことになりました。

災害は、いつ起きてもおかしくありません。普段から備えておくことが大切です。皆さんも、自分ができることを探してみましよう。それが、自分と大切な人の命を守ることにつながるのです。